

科目名 (Eng)		校外実習 (Extramural Practice)							
担当教員		青木寿博							
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
	物質工学科	4	集中	選択	1	30	専門	C	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(D-4)．(F-1)．(F-3)．								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：4)．6)．								
	JABEE基準1 (1)との対応：(d)-(2)-c)．(f)．								
授業の概要と方針		社会における技術者の役割を認識するとともに、学校教育で修得している知識が、実社会でどのように活用されているかを理解することで、今後の学習に役立てる。							
到達目標		①技術者としての心構えを体得する。②実習先で、今までに学習したことが生かされていること、あるいは5年次までに身につけたい学習内容を確認する。③人生設計の参考にできること。							
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容					事前学習	
前期	1	(実習受入先の選択)							
	2	①実習受け入れ企業等の説明							
	3	②実習先の希望調査							
	4	③実習先との調整							
	5	④実習先の学科内調整							
	6	⑤実習先の決定							
	7								
	8	これまで実習受け入れ機関名							
	9	アルビオン、旭化成工業、出光興産、エスエス製薬、小川香料、カゴメ、関西ペイント、クニミ							
	10	ネ工業、クレオ、クレハ、クレハ環境、江東微生物研究所、サンフックス、塩野義製薬、常磐開							
	11	発、トーアエイヨウ、中外製薬、日本色材、日本触媒、長谷川香料、日立化成、ムサシノガイ							
	12	ギー、いわき市、福島県、長岡技術科学大学、(独) 農業環境技術研究所							
	後期	13	(実習の期間)						
14		・原則として、第4学年の夏季休業中に実施する。ただし、やむをえない事情により夏季休業中に							
15		行なえない場合は、他の休業中に実施することができる。							
16		・原則として実習の期間は2週間とする。							
17									
18		(実習)							
19		・安全教育などを受け入れ先での安全確保に努める。							
20		・実習先のカリキュラムに従い、品質管理業務、分析評価、計測などを就業体験活動を行なう。							
21		(実習成果の報告)							
22		①実習の成果は本校所定の様式に従い、報告書を作成する。							
23		②夏季休業明けに、学科で行なう報告会にて実習内容と成果を報告する。							
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
試験について		定期試験は実施しない。							
評価方法		報告書と実習報告会での発表内容を総合的に判断して評価する。							
教科書									
参考書									
関連科目		化学工学、有機工業化学、無機工業化学、有機合成化学、有機材料化学、無機材料化学							
履修上の注意		挨拶、報告など社会人として求められるマナー、業務に対する姿勢を確認して、計画したカリキュラムを遂行する。							